

広瀬市長の所信と基本方針

8月29日(火)に行われた、第5回下野市議会臨時会の冒頭において、
広瀬市長が次のとおり、所信と基本方針を述べました。

平成18年第5回市議会臨時会の開催に際しまして、私の所信と施策の基本的な考え方について述べさせていただきます、議員各位、並びに市民の皆様への深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

《はじめに》

私は前市長辞任後の出直し市長選挙におきまして、市民の皆様からご支援をいただき、新たに市長に就任させていただきました。選挙戦を通じて、多くの市民の皆様と出会い、率直な意見交換をさせていただきました。様々なご意見をいただきました。なぜ、あのような事件がおきてしまったのか？
新しい市長になった場合、施策の大幅転換が行われてしまつののか？
旧3町の合併協議会で積み

上げてきた議論は、どうなってしまうのか？

前市長の公約は？

合併したばかりなのにこれからこの下野市はどうなってしまうのか？

などという政治倫理の問題と、スタート直後のつまずきであるが故の無理からぬ状況の下の戸惑いが、大半の意見でありました。

市民の皆様様の市政へのお気持ちには、大変複雑で厳しいものがありました。

そしてそれは、合併間もない下野市の将来に大きな期待と不安が混在した、市民の皆様様の率直な気持ちの表れであったと強く感じました。

新たに市長となりました私に課せられた最大の責務は、市政に対する市民の皆様からの信頼回復と不安感の解消であり、市民をはじめ市議会の皆様のご協力をいただきながら

ら、職員の英知を集め、下野市の再スタートを切ることで考えております。

人が集まり街を形成する。その街には当然暮らしを彩る様々な環境が生まれてくる。

そこで生活する人々が、いきいきとした下野市民であることを願い、実現に向けて発進する。その大きな原動力になる。

この思いを持って進む所存でありますので、あらためて、関係各位のご協力のほど賜りますようお願いいたします。

《基本方針》

基本方針であります。今回、私の市政に臨む基本的な考え方について申し上げます。

まず、下野市民としての連帯感の早期醸成に努めることであり、下野市の明るい未来を市民みんなで語り合い、夢

を実現化することにあります。現時点においては、明るさよりも不安感がぬぐいきれていない状況下にあるように見受けられます。

その市民の不安感の多くは、先ほど申し上げましたとおり、

行政の継続性、合併協議会において進められた方針・前市長公約等にありました。当然

それらの施策は、下野市の将来を見据えたものであると同時に、市民の一体感を醸成するために必要な施策であり、

また、その多くは、旧3町時代からの懸案事項であったことですので、これらの施策に対する姿勢は、単独施策であるのか、関連施策であるのか、

また、その背景および経過の状況をあらためて踏まえた上で、踏襲していく方向で考えています。

ただし、同時に早急な体制で新市としての必要性、費用対効果を厳しく検証し、優先事項、見直し事項の洗い出しをかけて行かなければならぬことも考えております。

これらのことを根幹におき、今後は様々な施策において、なぜ、実施しなければならぬ

のか、また、なぜ、実施出来ないのかといったことなどについて、きちんと情報を公開し、説明責任を果たして行かなければならないと考えております。

地方分権が進展していく中、個性豊かで魅力あるまちを築きあげるには、どのような取り組みを進めるのか、自ら選択し自ら責任を持つことが求められております。情報の共有を進めることによって、市民と行政が共に考えて決める。共に汗を流し行動する。協働の行政に転換していく下野市の行政スタイルを構築していく所存であります。

次に直近の課題として取り組むべき問題が、今回の出直し選挙の要因になりました、政治倫理の確立についてであります。

私自身、過去に前県議会議員であった叔父の時代から、慣習化していたお中元問題により、県議会議員を辞職した経験を持っています。自らの経験を風化させることなく、常に戒めとして前面に置き、市長の責務を果たしていく所存であります。この問題に